

# ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	石川 亮子
主な担当科目	音楽美学,器楽の歴史と作品,鍵盤音楽の歴史と作品,西洋音楽史Ⅰ,課題研究Ⅰ,課題研究Ⅱ、課題研究Ⅲ,原典講読研究Ⅰ,原典講読研究Ⅱ,西洋音楽史特殊講義
シラバス	<a href="#">ここをクリック(本学ポータルサイトトップページが表示されます。)</a> <a href="#">※画面下「シラバス」&gt;「シラバスを検索するにはこちらをクリックしてください。」をクリック</a>
2023年の教育目標・授業に臨む姿勢	①明快でわかりやすく学生の興味を引き出す授業 ②公平で公正な成績評価 ③ICTを活用したオンデマンド授業の構築 ④初年次および再履修者を対象と科目の授業展開について実践的に考察する
2023年の教育に関する自己評価	本年度は教員として常に心がけている①と②に加えて、「西洋音楽史Ⅱ」ではオンデマンド授業の効果的な運用方法について、「鍵盤音楽の歴史と作品」では1年生を中心とする授業の展開のあり方について、また「ハーモニー演習①」では再履修者を中心とする授業の展開のあり方について、実践的に考察を行った。いずれもそれぞれの方面からの難しさがあり、専門性を低めることなく、興味を維持していくことができるあり方について、今後も検討を続けていきたいと考える。
2023年のFD活動に関する自己評価	様々なコースの先生方や非常勤の先生方とも意見交換を行いながら、誠実に取り組むことができたと考える。
授業改善のために取り入れた研修内容	留学生も含めた多様な背景を持つ学生に対して、きめ細かく丁寧に向き合うことを常に心がけるように努力している。

## 2023年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:1863 教員名:石川 亮子

### 1)アンケート結果に対する所見

昨年度に引き続き、回収率が圧倒的に低いなかで全体的な所見を述べるのが難しいため、自由記述にみられた点について 2) で記述する。

### 2) 要望への対応・改善方策

・「まわりの受講生がうるさい」

講義科目において、私語をやめない学生がいる場合、何度か注意することはあったが、引き続き迷惑に感じている学生がいることを深く反省している。授業に集中したいと考える学生の権利を守ることを、次年度はより強く意識して臨みたい。

・「学生の反応をもっと見てほしい」「最初から作業をしながら授業を進めてほしい」

講義と演習の中間的な科目の場合、説明する時間と実際にワークを行う時間の割合を、学生の反応をよく確認しながら調整して進めていく必要がある。

・「楽曲分析とともに歴史を見ることができたので楽しく、とても勉強になった」

今回、初めて「鍵盤音楽の歴史と作品」の後期 15 回を担当した。楽曲分析を行う授業科目が少ないという意見があったため、分析を書き込んだ楽譜を配付し、鍵盤音楽の歴史を具体的な楽曲の分析とともに語ることを実践してみたが、うまくこちらの意図が伝わっているようで安心した。引き続き、歴史的かつ分析的視点も組み込んで、授業を展開させていきたいと考える。

以上のように、学生とのコミュニケーションを大事にしながら、様々な情報をわかりやすく明快に発信してことを心がけていきたい。

### 3) 今後の課題

アンケートについては、何よりも回収率を上げなければ、学生からの声を公正に聴く機会を得ることにはならない。14 回目の授業日以降という設定は、定期試験に向けて授業内容も集中していく時期であり、学生側も教員側も、なかなか授業アンケートという雰囲気になるのが難しい。そのため、実施時期について検討することを再度お願いできればと考える。また、同時に、授業アンケートの意義についても、しっかり学生と共有していくことを行っていきたい。

以上